

# 2016年5月20日（金）～22（日） 花の島 佐渡ツアー 「金北山登山（1172m）と周遊の旅」

クマさん会の20周年企画大募集を呼びかけたところ、その中に八丈島、佐渡島の登山＆周遊の提案があった。両島には左程の山は無いのではないかという疑念もあったが、実は佐渡には1000mを超える金北山があり、しかも貴重な花が豊富で魅力的な山であることがわかつてき。

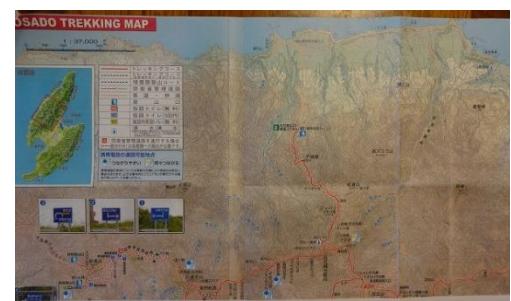
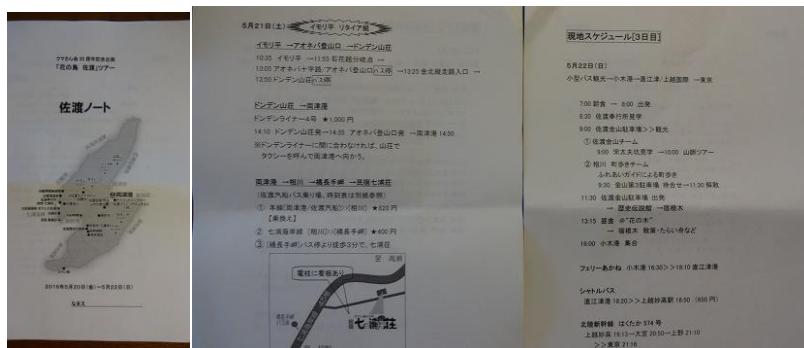
沢山の提案を吟味検討しているうちに、なんとなく成り行きで佐渡は小野寺さんがリーダーに相応しいということになり、彼女の水も漏らさぬ緻密な計画の下で今回の登山＆周遊の旅が実行された。

参加者は女性が、布目さん、能勢邦子さん、小山さん、岡部さん、小野寺さん、中島さんの6人、男性は能勢さん、文ちゃん、雄さん、吉松の4人、合計10人。さてどんな旅になりましたでしょうか・・・。

初日：5月20日（金） 晴

Reported by yosimatu

計画作成に当たり現地への事前調査を行い報告までしてくれた小野寺さんにより、詳細な計画表（佐渡島ノート）が全員に配られた。日ごとのスケジュールは勿論のこと、金北山トレッキングマップまで閉じこんである立派なものだ。



佐渡島までは長旅だ。上越新幹線で新潟に入り、新潟港から佐渡汽船（ジェットフォイル）に乗り継いで佐渡両津港に上陸する。両津港から宿泊先の「ドンデン山荘」まではバス（ドンデンライナー）に揺られて行くことになる。



我々が乗車する上越新幹線「Maxとき307号」が、東京駅20番線に静かに入線してきた。

東京駅発8時24分、新潟着は10時31分だ。





東京駅からの乗車は、能勢さん夫妻、中島さん、文ちゃん、そして吉松。



上野駅からは、布目さん、小野寺さんが乗車。



大宮駅で、岡部さん、小山さん、雄さんが乗車して、今回の旅の仲間10名全員が揃った。



全員揃ったところで、「佐渡ノート」に基づいてリーダー小野寺さんから今回のツアーに関する説明と確認が行われた。

何しろ、新潟駅下車から新潟港行き路線バス乗車までの移動時間は10数分しかない。バスターミナルに迷うことなく行き、その間に昼食弁当まで求めなければならない。

リーダーの指示は厳しく的確だ。



新潟駅を降りて、文ちゃんの先導により万代口バスターミナルへ急ぐ。



小野寺さん、中島さんは、既に予約済みの昼食弁当を弁当屋さん窓口で手際よく受け取る。



そしてバス発車4分ほど前に全員が、万代口バスターミナルに集合。



バスは15分で新潟港に到着。小野寺さんは、今度は早速佐渡汽船ジェットフォイル（水中翼船）のチケットを求めるため窓口に並んだ。

リーダーは超多忙なのだ。



金曜日ではあったが、ジェットフォイル利用者は思いのほか少なかった。



出船 15 分前に乗船開始。

11時30分発「すいせい号」が我々の船だ。



(すいせい号舷側)



船内左舷に10名が着席した。

最高時速80Kmなので安定航行まではシートベルト着用が義務づけられている。海面が凪いでいたので滑るように走り出した。



ジェットフォイルが離岸早々、我々は小野寺さん、中島さんが調達してきた弁当、「えび千両ちらし」と「焼漬鮭ほぐし」に舌鼓を打った。なかなか結構なお味でした。





船内は右舷、左舷にまばらに乗船客がいるだけで、客は少ない。時速 80 km なのだが、海が広いのでスピードを、全く感じない。窓外には、逆方向に佐渡から新潟に向かうジェットフォイルが見えた。



海上には靄がかかっていたが、やがて佐渡の姿がはっきりしてきた。



予定通り 12 時 35 分に両津港に着岸。



我々が乗船した「すいせい号」は下船客が少なく、両津港ターミナルの本来賑やかな土産物屋も、今日ばかりは少し寂しそうだった。



本日宿泊の「ドンデン山荘」までは、両津港ターミナルから更にバス（ドンデンライナー3号）にしばらく揺られなければならない。

チケット購入でここでも小野寺さんは大忙しだ。



(ドンデンライナー)



「ドンデンライナー3号」もほとんど貸切状態に近く、ゆったりと席を取ることができた。

バスはジグザグの山道を登って行ったが、途中の草原ではまだ十分咲ききらない「レンゲツツジ」の群生が見られた

「花の島 佐渡」はどうやら本当のようだ。

40分ほどで「ドンデン山」の看板のある、バス終着点広場に到着。

見上げると「ドンデン山荘」が建っている。看板前で集合写真を1枚。



ドンデン山からの眺望が素晴らしい。

左手には我々が上陸した両津港と加茂湖、右手には真野湾が見える。両湾の間は平野で良田が広がっている。佐渡島のもっともくびれた辺りだ。





山の稜線を目で追って行くと、佐渡で最も高い金北山（172m）が望めた。

明日は大佐渡山地の稜線を約7時間歩くことになる。

足元に目を凝らせば、驚いたことにバス終着点広場の足元には小さな花が一杯だ。遠くの景色に気を取られて気がつかなかつたが、あちこちに可憐な花が咲き誇っている。

みんな歓声を上げながら、慌ててシャッターを切った。



花の写真撮影も一段落して山荘に向かった。

広場から歩いて数分ほど登ったところに「ドンデン山荘」はある。



(山荘玄関)

宿泊手続きを済ませて、玄関先でリーダーからこれから行動につき説明を受けた。

（受付を済ませる小野寺さん。本当にお世話になります！）



男性4人は二段ベッドの部屋「カタクリ」を利用、女性6名は畳部屋「交流研修室1」を使用することになった。山荘は、植物分類学会研究員の団体やトレッキンググループが何組も入っていて、ジェットフォイルのガラ空き

状態とは大違いで、超満員であった。

我々は食事を食堂で取ることができず、女性部屋にセットしてもらうような有様であった。



(男性部屋)



(2段ベッド2台で、4人が精一  
杯) (2段ベッド2台で、4人が精一  
真撮れず)



(女性部屋：恐ろしくて覗けず写

部屋で人心地したところで、ゆっくり2時間ほど掛けてドンデン高原を散策することにした。ドンデン山荘を始点にして、尻立山、椿越峠、ドンデン池、金北縦走道路入口を経て山荘に戻ってくる周遊コースだ。

看板に書かれていた「ドンデン」の由来は、一説に鈍嶺（どんでん）からきているとか。頂きの円い山の意味だそうだ。



「尻立山 0.7Km」の標識の有るところで、全員お尻を持ち上げて、集合写真に納まった。



全く予想も、また、ここまでとは期待もしていなかったことだが、驚いたことにこの周遊コースは山の花の宝庫であった。あちこちで歓声が上がっていた。





尻立山（940m）にて



椿越峠を経て、ドンデン池へ。



椿越峠の標識



ドンデン池にて

ドンデン池からは、山荘への帰路コースとなった。途中花は尽きず、水芭蕉までも楽しむことが出来た。



ドンデン山荘への舗装道路に出てきた。



舗装道路脇にも気になる花が咲いている。

崖下に、僅かに残る雪渓も見られた。





4時、ドンデン山荘に帰着。

40人を超える宿泊客がいるので、狭い風呂に客が押し寄せてくることが予想された。それでは汗もゆっくり流せない。

兎に角、一足先に一風呂浴びて一日の汗を流すことにした。



男性陣は早々と風呂から上がって、玄関前の早速風の抜けるベンチで乾杯。



女性陣も全員風呂から上がってきたので、今度は女性部屋に入り込んで本格的に一献。



5時半になったら、女性部屋に夕食が運ばれてきた。

「いっただ一きまーす！」



「佐渡のきりょうよし」などという地酒もグビグビやってしまって、みんな、ご機嫌だ。



この日の山荘は超満員。我々の夕食も女性部屋を利用して取ることになった。

いつまでも女性部屋で管を巻いている訳にもいかず、男4人は程ほどの時刻に部屋に戻った。二段ベッドが2つ入っているだけの狭い部屋で、のんびりと更に一献という雰囲気でも無い。誰言うともなく、「仕方がないから寝るか」・・・てな塩梅で、9時頃には布団にもぐって高いびきとなつた。(ガーゴー、ガーゴー)